

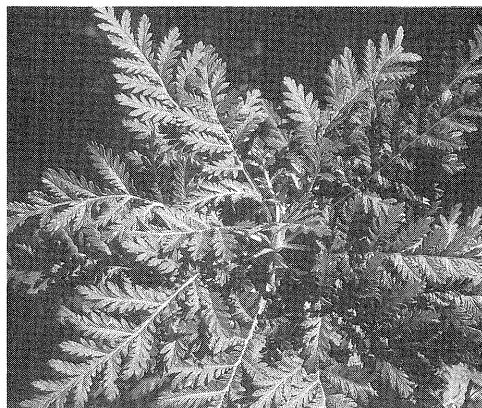
雑草こぼれ話

広がりつつある外国産イワヨモギ

皆さんはこんなヨモギを見たことはありませんか？ 山道などで崩落防止をしてある法面などでよく見られる、本州では珍しいイワヨモギです。

イワヨモギ (*Artemisia gmelinii* Weber) は別名カムイヨモギとも呼ばれ、わが国では北海道の山地に生育していますが、本州以南では分布していませんでした。しかし、最近本州以南の各地で見られるようになりました。イワヨモギはキク科の半低木状の多年生で、茎には稜があり暗紫色，よく分枝して高さ50～100cm，若い茎には蜘蛛糸状の毛がある。葉は楕円形で2回羽状に深裂し，裂片は披針形～線形で鋸歯があり、中軸は櫛の歯状。9月～10月に茎先に球形の頭状花を下向きにつけ，穂状の花序をつくります。

ところで、本州で見られるイワヨモギは東



▲イワヨモギの幼植物

アジア産の種子から生えたもののようです。最近では法面の崩落防止や緑化目的で野草種子の吹き付けが行われていますが，この大量に必要な吹き付け種子の大半は中国や韓国からの輸入品でまかなわれています。本州で見られるイワヨモギはこれら外国産の種子からの発生と見られ，生態系攪乱が心配されています。(廣田伸七)



▲イワヨモギの花期 (掲載写真の2点は山梨県精進湖畔の吹き付け現場で撮影)